

保護司会会報

■発行 西多摩地区保護司会 会長 斎藤 徹 ■編集 西多摩地区保護司会 広報委員会 ■発行日 平成31年3月15日



羽村堰



目次

・平成30年度東京更生保護事業関係者顕彰式典	2
・西多摩地区保護司会講演会	2
・西多摩地区保護司会新年会	3
・更生保護施設視察研修(羽村・奥多摩)	4
・ ク (青梅・あきる野)	5
・ ク (瑞穂・福生)	6
・ ク (日の出・檜原)	7
・多摩連全体研修会	7
・会務報告	8

平成三十年度東京更生保護事業関係者顕彰式典

平成三十年度東京更生保護事業関係者顕彰式典が、十一月二十八日(水)に、港区メルパルクホールで開催されました。



**全国保護司連盟理事長
表彰**

坂本 範夫 (あきる野)

野口 敏雄 (青梅)

島田 瞳 (青梅)

田中英一郎 (青梅)

知久 一成 (青梅)

福島 幸之 (青梅)

川勝 真実 (あきる野)

木宮 憲子 (奥多摩)

小澤 進 (あきる野)

橋本 光正 (青梅)

本橋 悅子 (羽村)

内山 郁子 (あきる野)

東京保護観察所長表彰

竹田 良昭 (福生)

田村 祥子 (福生)
荻島 初美 (羽村)
吉澤 秀郎 (青梅)
**関東地方更生保護委員会
委員長表彰**
関谷 壽夫 (福生)
濱中 賢次 (福生)
本橋 義雄 (青梅)
山森 健吉 (青梅)
澤井 和子 (あきる野)
森本久仁子 (あきる野)
並木 邦雄 (羽村)
関谷 忠 (瑞穂)
福島 德秀 (瑞穂)
佐久間 砂由利 (奥多摩)
松本 則夫 (日の出)

関東地方保護司連盟会長 表彰

島田 瞳 (青梅)
田中英一郎 (青梅)
知久 一成 (青梅)
福島 幸之 (青梅)
川勝 真実 (あきる野)
木宮 憲子 (奥多摩)

崖っぷちの人を救う!

講師 玄 秀盛氏



地域活動部 指田 勇

十一月一日(木)午後二時より、福生市市民会館小ホールで西多摩地区保護司会「講演会」を開催した。講演内容は玄 秀盛氏による「崖っぷちの人を救う」、自らが変わつた経緯とNPO法人の立ち上げと刑務所出所者の支援と更生に向けた取り組みについて語っていただいた。

健康診断のつもりだった献血の検査結果を見て、白血病ウイルスの保菌者であることが判明した。「俺、死ぬんか?」と思った瞬間、いきどうりがこみ上げた。「鬼、畜生と言われて生きてきて、死のふちで残ったのが金儲けの会社と憎悪の念。そんなん、もうええわ……」。偶然入った書店で「NPO・ボランティア」の文字を見て体に電気が走った。「残りの命、人助けに預けたろ」。

西多摩地区 保護司会講演会

郡司 光志 (福生)
平田みつ枝 (福生)
大谷 宜雄 (青梅)
杉村 誠二 (奥多摩)
加藤 孝一 (青梅)
玉川 豊 (青梅)
辻本 恵子 (日の出)

玄氏は一九五六年、韓国・済州島から密入国した父と在日韓国人の母との間に、大阪市西成区に生まれた。六歳のころ、母に内縁の相手ができたため、顔も知らない父に引き渡され、毎日のように暴力をふるわれ、幼心に「自分の命は自分で守る」と覚悟をきめた。小学校は八回変わった。転校した先々で、ケンカの毎日だった。中学卒業後は、自動車修理工場や、すし屋など三十種類もの職を経験した。次に考えたのが、日雇い労働者を現場に派遣する「口入れ」。これが阪神大震災の復興需要に重なり大成功する。一日に一〇〇万円を使う毎日を繰り返す。

うりがこみ上げた。「鬼、畜生と言われて生きてきて、死のふちで残ったのが金儲けの会社と憎悪の念。そんなん、もうええわ……」。偶然入った書店で「NPO・ボランティア」の文字を見て体に電気が走った。

二〇〇一年、会社を清算し「新宿救護センター」を立ち上げた。これが後の日本駆け込み寺だ。家庭内暴力（DV）、ひきこもり、虐待、多重債務、ストーカー、自殺、マイノリティ問題など、年中無休の無料相談が始まった。

二〇一四年社会生活が困難な若者や刑期を終えた出所者などの社会復帰を目的とした「再チャレンジ支援機構」も立ち上げた。

二〇一四年社会復帰を手助けした。居酒屋「新宿駆け込み餃子」を歌舞伎町で開店。彼らが働く機会を増やすため、年中無休二十四時間営業で二十数名の社会復帰を実現した。「たった一人のあなたを救う」という信条を守り、実務は懐深く構える。来る者は拒まず、去る者は追わず。それが持続的な活動を支えると結んだ。

平成三十一年
西多摩地区保護司会新年会

平成三十一年西多摩地区保護司会新年会が開催されました。福生分区の皆さんによる清興で始まり、齋藤会長は、保護司の安定的確保のため各分区足並みをそろえて取り組みましょうとあいさつされました。続いて、福生市福島副

市長が再犯防止計画の作成へ向けての決意を含めてあいさつされました。

新任保護司十名が紹介され、それが決意を述べました。

各分区で新人发掘への取り組みが始まっていることを実感できました。

恒例の抽選会では、当たった人の笑顔、周囲の歓声で賑やかに進行しました。また、総務部の工夫で短時間で進行するよう準備されていました。メに入り、四のメをお二人の観察官、五のメを各分区長がつとめお開きとなりました。



坂本保護観察官・小嶋主任観察官

斎藤会長



福生分区の皆さんによる清興

西多摩地区保護司会新年会



新任保護司の皆さん



会長賞を当てた
大久保保護司

西多摩地区保護司会新年会



分区長による大ベ

平成31年新年会 各分区参加者数

総務部会報告資料
平成31年1月30日

No.	分区名	在籍人員	参加申込	参加実績	不参加	参加率 (%)	備 考
1	青 梅	35	26	23	3	66	当日欠席3名
2	福 生	22	19	18	1	82	当日欠席1名
3	羽 村	20	18	18	0	90	
4	あきる野	27	22	20	2	74	当日欠席2名
5	瑞 穂	15	13	12	1	80	当日欠席1名
6	日 の 出	8	5	5	0	63	
7	奥 多 摩	7	7	7	0	100	
8	檜 原	3	2	2	0	67	
合 計		137	112	105	7	77	

*不参加：参加申込み者の中での不参加者数

*参加率：在籍人数に対する参加率(%)

甲府刑務所

○羽村分区 佐久間 英明



として代官町に設置され、大正十一年に名称が甲府監獄所から甲府刑務所と改称され、昭和二十年に空襲で焼失したあと復旧工事をして使用。

その後、昭和五十年に現在地の堀之内に移転し現在に至っている。収容人員は、未決を含み三百六十五人（外因二四名）で収容定員六百人

の約六十分の入所率である。収容分類は、B級で再犯者（二十六歳以上で刑期八年未満）の短期処遇で在所平均年数は、三年四ヶ月である。刑務作業は、社会復帰円滑化のため、アーチ溶接技術指導を行っている。

また、応接セット、パンダの縫いくるみ、ロケットストーム等を製作しており、即売会で好評とのことである。特色として、全国刑務所で唯一のドーム型の水耕農場でレタスを栽培し、イオン等に納入している。

その後、所内を案内して頂いた。

施設は、築三十八年と古いが、敷地内を含めて大変きれいに整備されていた。規律正しく厳肅な処遇体制が随所に感じられた。運動場の近くに「母の鈴」の石碑があった。心に迷いが生じた時には、鈴を鳴らして母を思い出し、二度と罪を犯さないでの思いが込められている。その後、会議室で活発な意見交換を行つた。

翌日、あいにくの雨となつたが、錦秋の昇仙峡を探索し、ほうとうを堪能した後、帰路についた。

府中刑務所

○ 奥多摩分区 瀧島 肇



務課長に施設の見学や説明等をして頂きました。最初に外国人向けの独立部屋、日本人の共同部屋、革製品や高齢者用の作業場、自動車修理工場等を見学しました。刑務所で自動車の車検も行っていると聞き驚きました。

会議室に戻り施設等の説明、質疑を行いました。この刑務所は、敷地面積二十六万m²で東京ドーム五個半分、周囲延長2kmと広大な土地であり、大正十三年当時だから確保出来たのだろうと思いました。

現在は千八百八十六人を収容し、定員の七十・七%にあたるそうです。犯罪傾向が進んでいる者（B指標受刑者）、外国人（F指標受刑者）を主に収容しています。外国人は初犯者がほとんどですが、日本人は再犯者が多く十回以上の受刑者もおり驚きました。再犯の主な理由は、仕事が見つからない、居場所がない、食事でなければいけない等のことがあります。

はり受刑者は、まだまだ社会に受け入れられていないのかなと思いまし
た。また、体育館等を開放したり、
文化の日には催し物を行うこと等で
地域との共生を図っているそうです。
研修終了後、刑務所作業製品展示
場に寄り、受刑者が製作した素晴らしい品物を見て、皆思い思いの物を
購入して午後四時に府中刑務所を後
にしました。

茨城農芸学院

○青梅分区 島田 瞳

十一月二十六日、暖冬の早朝、保護司、O.B.、更生保護女性会、市職員の総勢二十五名で茨城農芸学院視察研修へと出発した。

途中、筑波宇宙センター見学。宇宙に想いを馳せた。

昼食後、バスは一路目的地へ。行く左手に悠久と立像する牛久大仏、そのお顔が向く先に学院は位置していた。建物は鳥が翼を広げた姿をイメージして造られたそうだ。

学院は第一種少年院に指定され、主に関東甲信越の家庭裁判所の審判で、少年院送致の決定を受け義務教育を終了した十五歳以上、二十歳未満の男子少年を収容。特に資格取得などの職業補導に入れている。東京ドーム二個分相当の敷地には、大型特殊免許取得から園芸、フォーラクリフト、玉掛け等、様々な訓練所が設備されている。定員は一五〇名、現在一〇四名収容。在院日数は平均十一ヵ月だが長期に渡る在院もあるそうだ。

入院後は身なりを整えその日から日記記入が課せられる。自分を振返る時間を持つこと、相手にものを伝える手段としての書き方を身につけること、自主性を育て自立生活するための基本的矯正教育となる。その成果は展示された作文に見ることができた。グラウンドには元気に運動をする少年達の姿が。同院は、教官の半数が少年達と寝食を共にし、発達に課題のある子も含め、生活の基本的な矯正指導、健全な心身を育て、円滑な社会復帰を図るべく資格習得補導に親身に向合い取組んでいる。

翌日は房総での花摘み、海ほたる等を観光し帰路へ、実りある二日間の研修を終えた。

愛知県監獄岡崎支所として設置され、昭和三十七年この場所に名古屋刑務所岡崎医療刑務支所となり、全国四カ所ある精神障害者の収容施設として今に至っています。

山の斜面に階段状に配置された施設で福田総務部長から概要説明を受け、施設見学・質疑応答と、ほぼ二時間半の訪問が緊張した中であつといふ間にすぎました。主な内容は、①境遇指標（収容分類表）の詳細な説明を受け、当施設はAとMの男性のみ現在百十二名（定数二百六十九名）を収容している。

②職員は、医師五名・看護師十三名を含めて百五名である。

③基本は、精神療法・薬物療法・生活療法を中心とした精神医療を行つており、社会復帰のための活動も実施しているがなかなか難しく、出所後の治療の継続、更生保護機関との連携が重要な課題となっている。

④保護觀察の意味がわからない。身元引受人がいない。社会復帰の意欲



岡崎医療刑務所

○あきる野分区 新井 俊數

好天の十月二十五日、あきる野分区保護司十九名で徳川家康の時代の風情漂う岡崎を中心とした三河地方を訪れました。

岡崎医療刑務所は、明治十四年に愛知県監獄岡崎支所として設置され、昭和三十七年この場所に名古屋刑務所岡崎医療刑務支所となり、全国四カ所ある精神障害者の収容施設として今に至っています。

山の斜面に階段状に配置された施設で福田総務部長から概要説明を受け、施設見学・質疑応答と、ほぼ二時間半の訪問が緊張した中であつといふ間にすぎました。主な内容は、①境遇指標（収容分類表）の詳細な説明を受け、当施設はAとMの男性のみ現在百十二名（定数二百六十九名）を収容している。

②職員は、医師五名・看護師十三名を含めて百五名である。

③基本は、精神療法・薬物療法・生



活療法を中心とした精神医療を行つおり、社会復帰のための活動も実施しているがなかなか難しく、出所後の治療の継続、更生保護機関との連携が重要な課題となっている。

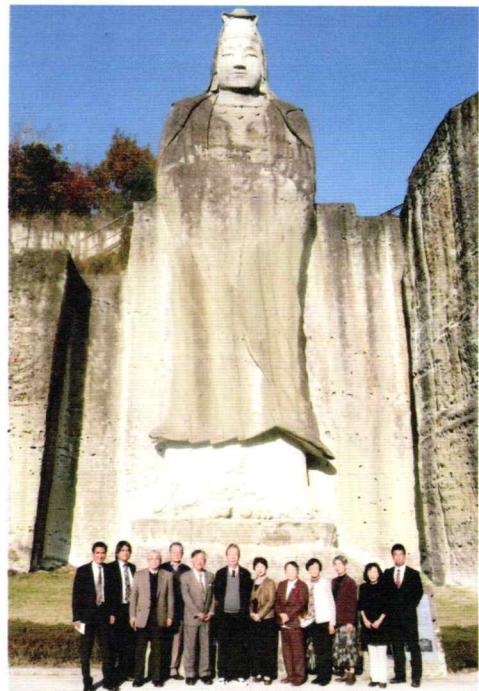
④保護觀察の意味がわからない。身元引受人がいない。社会復帰の意欲

が欠如している。自立心が欠如している。入所十九回や無期等の凶悪犯もいる中、満期で出所せざるを得ないなどの課題も多く、地方自治体に通告したり、医療機関に繋げたりする事が重要である。

精神的な医療が必要だという受刑者の施設での研修は、私たち保護司に何ができるかを考えさせられ重い気持ちになりましたが、日常生活に必要な社会適応能力を身に付け、一日も早く社会復帰できることを願つて、岡崎医療刑務所を後にしました。

喜連川少年院

○瑞穂分区 小峰 恒夫



十一月二十七日、十一月とは思えない陽気の中、保護司、事務局一名、総勢十二名で視察研修に、喜連川少年院に行つてきました。

玉井次長の説明では、昭和四十二年に中等少年院として開院され、現在は初等・中等少年院が併設されており、長期処遇専門の施設となり短期処遇には対応していないとのことです。

施設は、開院半世紀で老朽化が問題となり、大規模な改修工事を行つており、現在は四十名ほど収容され、定員の半分ほどだそうです。

職業能力開発過程では、溶接科・農園科があり、フォーカリフト実習もあるそうです。

教育課程では義務教育はもちろん相撲大会や水泳大会など、スポーツも盛んで、体力向上にも努めているそうです。

院内を見学の際、調理室の前に白菜がたくさん積んであります。農園で採れたもので、しばらくは白菜の献立が続くので飽きてしまうそ

うです。日光東照宮の社会科見学や、草刈の社会奉仕活動も行われていて、社会復帰に向け、いろいろな処遇を行つてあるそうです。

緑の金網のフェンスに囲まれた施設を後にして、日本最古の石仏大谷觀音と大谷石造り聖堂、松ヶ峰教会を見学しました。教会では、説明していただいた牧師さんが瑞穂町の出身であることを聞いて、一同驚きの声をあげました。

今回本来ならば、日帰りの年ではなかつたのですが、私の事故を気づかつていただきました。バス会社にも、大変お世話になり、有意義な研修になりました。

横須賀刑務支所

○福生分区 木下 義彦



人受刑者に加えて、昭和三十年十二月から日米地位協定により米軍人受刑者の集禁施設となりました。

2 横須賀刑務支所の敷地は、六万四千平方メートル、建物総面積一万五千平方メートル、その中には指定受給製品を製造する石けん工場もあり、石けん製造はISO九〇〇一の認証を取得しています。余談ですが大手メーカーと共同開発した、ここで製造しているブルーシールズは汚れ落としのすぐれもので

3 刑務支所の収容者数は、現在、百五十三人で、内八人が米国軍人です。服役している日本人の平均年齢は、四十五歳で犯罪種別は、主に覚せい剤二十六%、竊盜二十二%、詐欺二十一%となっています。

4 刑務支所では、矯正処遇として、施設運営作業、石けん製造や園芸課程、パソコンなどの職業訓練、グループミーティング方式による薬物依存離脱指導を行つています。

5 再犯防止としては、所内で就労支援のためのキヤリアカウンセリングや出所三か月前からハローワークと連携しています。

終わりに当分区では、夕食後、幹事部屋に集い、恒例の情報交換を行いました。また、翌日は世界文化遺産である伊豆葦山の反射炉を見学し日本の近代化の歴史を学びました。

1 横須賀刑務支所は、戦前は海軍刑務所だったものを戦後、横須賀刑務所横須賀刑務支所と改称され、日本

山形刑務所

(日の出・檜原分区合同研修)

○日の出分区 山田 みな

好天に恵まれた十一月十五日、日の出・檜原分区保護司、日の出更女、事務局合わせて十四名で山形刑務所を訪ねた。

山形刑務所は、当初六〇〇人規模の刑務所だったが、平成十一年収容区分の変更により長期受刑者の収容を開始すると共に、平成十五年から十三年かけて全体改築工事をし、千五百人規模の刑務所となつた。東京・札幌・仙台矯正管区から十年以上の中長期受刑者を受け入れ、現在収容者千名中の七十パーセントを越えている。

広大な敷地に、刑務作業場、総合訓練施設等、工場は二十一、千名以上収容可能な体育館、一度に五十人は入れる風呂が二つとその大きさに驚かされる。刑務官は自転車で所内を巡回するという。

長期にわたる受刑生活を入所から出所まで支えていくには、適切な訓練・改善・指導は欠かせない。若くして入った人も、出所時には二十年・三十年の年を取つて出ることもある。自ら考えて行動し、居場所と出番を与え、何のあてもない状態で出さないことを常に考えている。ま

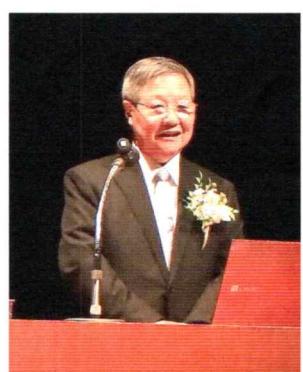
た、地域に帰つたら、そこでの保護司の協力が大切と話された。

一方で余暇活動の通信教育やクラブ活動も充実していることに少し救われる思いがした。体育館に引かれた長い斜線は綱引き大会用で工場対

抗戦は盛り上がるそうだ。

刑務所を後にして宿に入ると当日の新聞の地方版に「刑務所の不祥事多発」の記事が。長い付き合いの中で刑務官のストレスもいかばかりかと思い案じられた。

二日目はワイナリーや上杉神社を訪れ、見事な紅葉を楽しみ、帰途についた。



宮本信也先生

多摩連全体研修会 発達障がいの理解と支援

多摩連全体研修会

多摩連野崎会長より、更生保護活動を推進する中で、対象者が発達障がいを持つケースが増えてきて、保護司から発達障がいを正しく理解したいとの声がだんだん強くなってきた。講師もこの道日本屈指の専門家宮本先生にお願いできた。有意義な研修としたいと挨拶がありました。

講師の宮本先生は、心休まるアルプスの山、高山植物を画面に混ぜるなど、視聴者を思いやり、聞きやすい口調で、メリハリをつけ講演してくださいました。

自閉スペクトラム症の説明では、

医師としてのご自分の体験を小学生とのやり取りを通して説明してくださいました。医師…何年生ですか？児童…3年生です。医師…何組ですか？児童…1組です。医師…先生のお名前は？児童…宮本先生です。質問者は学校の話をしているので先生だろうと思ったのに、児童は「先生」とは今自分を診察している先生と考え、宮本先生と答えたのです。このように通常は普通に推測できることが自閉スペクトラム症の人は推測できず、聞いた言葉に直接つながる言葉で答えてしまうのですと一例をあげて説明してくださいました。注意欠如・多動症（ADHD）についても事例を混ぜながら分りやすく説明していただきました。

最後に「保護観察において対象者が発達障がいの場合、①家族にも同じ特性を見ることが少なくない。②その場合、少年への発達障がいへの配慮と同様の配慮・対応が必要である。③それが保護者の姿勢・対応を変化させることに繋がり、結果として再犯防止につながる可能性がある。」とまとめられました。

この研修で、対象者が発達障がいであればもとより通常の更生保護活動にも必要なことを教えていただきました。多摩地区から再犯防止へ歩踏み出せた貴重な研修でした。

会務報告

第二回理事会

平成三十年十二月六日(木)青梅市福祉センターにおいて第三回理事会が開催されました。十二の報告事項と今後の予定確認のあと平成三十一年新年会など三項目について協議しました。



理事会のようす

「不安が多い中、気持ちを楽に、早く保護司会の皆さんの中に溶け込んでいきます」との声が聞かれました。

白井 孝
(あきる野分区)
(在職十六年)

福生市もくせい会館
・第Ⅰ期定期例研修

高橋 秀夫
(瑞穂分区)
(在職二十六年)

六月十二日(水)
青梅市河辺市民センター
六月十八日(火)

新任保護司
(敬称略)
十月二十一日付左記の方々

が新たに保護司として委嘱されました。今後のご活躍を期待します。



退任保護司 (敬称略)

新任保護司研修会
のようす

平成三十年十月二十七日付一名、
十月二十八日付一名、十二月二十一
日付四名の方が退任されました。長
い間保護司活動へのご尽力ありがと
うございました。

並木 邦雄
(羽村分区)



高野 佳弘
(青梅分区)



笠倉眞一郎
(あきる野分区)



武藤 悅子
(あきる野分区)

今後の行事予定

・平成三十一年度西多摩地区保護司
会定期総会

四月二十六日(金)

原稿、写真など会員の皆様から
のご協力に感謝します。

広報部 井上 基

平成31年3月15日

西多摩地区保護司会会報

平成三十一年一月十八日(金)西口
会議室において新任保護司研修会が
開催されました。研修部の竹田理事
が講師を務め、平成三十年九月と
十二月に発令を受けた新任保護司六
名が参加しました。新任保護司から

新任保護司研修会

濱中 賢次
(在職十年)

野口 敏雄
(青梅分区)

細田 忠昭
(在職十四年)

編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われ
ますが、寒に堪えた梅便りも各地
で聞かれるようになりました。

閉じこもっていた会員の方も寒
くてできなかつたことが外に出て
活動出来る陽気となりました。犬
と散歩したり、畑を耕したり、ス
ポーツを楽しんだりする絶好の季
節となりました。更生保護活動の
合間に健康維持に努めましょう。

平成最後の広報誌一一七号発行
に当たっては各分区の視察研修報
告を掲載しています。他分区のよ
うすについて情報収集のひとつと
してご活用ください。また、講演
や研修は、ご自分の遭遇にも生か
せていただけたら幸いでございま
す。

六月二十七日(木)
あきる野市役所